

あいち農産物生産流通レポート

2025年8月号

ページ

◎ マンスリーレポート		
・ 本県における「つまもの」の生産販売状況について	(園芸農産課)	1
◎ 地域トピックス		
・ トロっと甘い！今年も「こまきゴールド」が大人気	(尾張農林水産事務所)	2
◎ 東京レポート		
・ 京浜市場愛知県野菜連絡会が2025年秋冬作に向けて販売反省会を開催	(東京事務所)	3
◎ 東京都中央卸売市場における8月の主要な愛知産青果物の動向	(東京事務所)	4
◎ 花 き		
・ 切花・鉢花の8月の見通し(県内市場)	(食育消費流通課)	6

内容についての問合せ先

愛知県農業水産局農政部食育消費流通課	(052)-954-6434
愛知県東京事務所行政課農産物プロモーショングループ	(03)-5492-5400

本県における「つまもの」の生産販売状況について

園芸農産課

愛知県は、「大葉」を始め、刺身に添えられる「食用ぎく」や「しその花穂」、食べられる花「エディブルフラワー」など、「つまもの」の生産が盛んです。主要な産地は東三河地域で、園芸用施設を使って一年中生産・出荷しています。愛知県つまもの振興協議会の2024年度の販売額は170億円を超え、日本一の産地となっています。今回は本県における近年のつまもの類の生産販売状況を報告します。



愛知の「つまもの」

1 愛知県つまもの振興協議会について

愛知県つまもの振興協議会（事務局：JAあいち経済連）は、「つまもの」の生産・販売を行う6組合で構成されており、363戸の会員がいます（表1）。各組合の協力のもと、共同販売、消費拡大、担い手育成等に取り組んでいます。

2025年7月18日（金）には協議会会長らが知事を訪問し、「あいちのつまもの」をPRしました。

表1 愛知県つまもの振興協議会の構成（2025年）

組合名	主産地	戸数	主な作目
豊橋温室園芸農業協同組合	豊橋市	214戸	大葉、食用ぎく、しその花穂等
東三温室園芸農業協同組合	豊川市	82戸	大葉、食用ぎく、ハーブ類等
三河温室園芸組合	蒲郡市	37戸	食用ぎく等
ひまわり農業協同組合	豊川市	17戸	大葉
豊橋農業協同組合	豊橋市	5戸	大葉
愛知みなみ農業協同組合	田原市	8戸	大葉

2 つまもの生産販売状況について

「つまもの」の代表的な品目である「しそ」（「大葉」は施設で栽培する青しそをいう）の産出額は愛知県が全国1位です（表2）。

つまものの販売は、2020年以降のコロナ禍の需要減少に伴い低下しましたが、2024年度の販売額は前年を9.3%上回る170億7000万円で、コロナが終息したことにより販売状況が好転しています（表3）。生産面では、夏期高温対策やヒートポンプの導入等により、周年で安定的に生産できるよう取り組んでいます。

表2 しそ産出額の全国順位※

順位	県名	産出額（億円）
1	愛知	139
2	大分	16
3	福岡	5
全国計		193

※ 生産農業所得統計（2023年）

表3 近年の「つまもの」の販売実績※

（百万円）			
年度	大葉	その他つまもの	合計
2024	12,137	4,933	17,070
2023	11,118	4,497	15,615

※ 愛知県つまもの振興協議会実績

トロっと甘い！今年も「こまきゴールド」が大人気

尾張農林水産事務所

昨年に出荷が開始された新しいモモ「こまきゴールド」をご存じですか。

その名のとおり、小牧市で生産されている、6月中下旬に収穫できる早生品種としては珍しい大玉の黄桃です。2012年に小牧市のモモ生産者が白肉系品種「みさか白鳳」から枝変わりを発見し、2022年に新品種として登録しました。

モモ生産者の高齢化や後継者不足が進む中、産地活性化の起爆剤として期待が高い「こまきゴールド」。そのブランド化への取組を紹介します。

※「枝変わり」：ある枝だけが突然変異し、異なる特徴を持つようになる現象。例：色の異なる果実が着く

1 生産拡大でブランド強化

「こまきゴールド」で産地を盛り上げるため、2021年に尾張中央農協が中心となり、「こまきゴールド生産推進協議会」を設立しました。毎年生産量が増え、現在は29名が約150本の「こまきゴールド」を栽培しています。

2 より高い品質を目指して

産地では複数の栽培試験を実施し、高品質な「こまきゴールド」を安定して生産するための努力を重ね、栽培マニュアルとしてまとめています。

マニュアルには、栽培適地の説明、苗木の植え付け方法や果実にかける袋の種類が細やかに記載され、黄色に赤みがかった鮮やかな果皮色と甘い果実となるためのこだわりが詰まっています。

3 今シーズンのさらなる進化

2025年3月に選果機が導入され、これまで生産者が行っていた等階級の選別を、選果機でより正確に行えるようになりました。これにより生産者の負担が大幅に軽減されるとともに、品質が安定しました。さらに、秀品の中でも特に糖度の高いモモを「こまきゴールド極（きわみ）」として販売しました。

今年は去年の3倍にあたる約8000個が出荷され、尾張中央農協の産直施設全4店舗で販売されました。産地のPR活動が功を奏し、行列ができる大盛況でした。進化を続ける「こまきゴールド」、来年もぜひ、ご注目ください。



「こまきゴールド」



栽培試験の様子
(最適な摘果の検討)



「こまきゴールド極」

京浜市場愛知県野菜連絡会が 2025 年秋冬作に向けて販売反省会を開催

東京事務所行政課農産物プロモーショングループ

2025 年 7 月 8 日（火）に Alice aqua garden 品川（東京都品川区）において、京浜市場愛知県野菜連絡会（構成員：京浜地域の青果卸売会社 28 社、以下「野菜連絡会」という。）の秋冬野菜販売反省会（以下「反省会」という。）が開催されました。

1 2024 年度の秋冬野菜の実績

J A あいち経済連の京浜・関東市場における秋冬野菜の取扱実績が報告され、数量 67,850 t（前年比 80%）、金額 275.9 億円（同 118%）となりました。品目別数量の第 1 位はキャベツで 40,454 t（同 78%）、金額 69.9 億円（同 168%）、以下トマト 7,737 t（同 88%）、金額 34.6 億円（同 102%）、ミニトマト 4,976 t（同 89%）、金額 40.9 億円（同 106%）、ブロッコリー 4,058 t（同 77%）、金額 14.7 億円（同 108%）、おおば 1,924 t（同 99%）、金額 58.5 億円（同 109%）でした。



会議には会員会社、J A あいち経済連、県の担当者が出席

2 キャベツ、トマト・ミニトマト、ブロッコリーの情勢報告及び本県産地への要望

反省会では、会員から本県の主要品目について情勢報告及び本県産地への要望がありました。

(1) キャベツ

加工業務用への供給不足が出荷開始の 10 月から翌年 3 月まで続き、単価高の影響で、1 月には輸入量が前年同月比で急増したことが報告されました。要望では、「再生産価格を維持するための数値に基づく相場形成」と「経済連、J A、市場が一体となった本県産キャベツの需要拡大に繋がる取組の推進」が出されました。

(2) トマト・ミニトマト

作付面積は、全国的には微減から横ばい傾向ですが、量販店ではミニトマトの売場の比率が高くなっており、熊本県では過去 2 年でトマトからミニトマトへの転作が 20ha 程度行われたことが報告されました。要望では、出荷量に関しては「安定供給」と「精度の高い情報提供」、出荷物に関しては「本県産の食味の良さや品質の高さの維持・向上」が出されました。

(3) ブロッコリー

2026 年度から指定野菜に追加されることが決まり、また、国産志向も高くなっていることから、量販店からの引き合いが強くなっていることが報告されました。要望では、「安定供給」と「精度の高い出荷量の情報提供」が出されました。

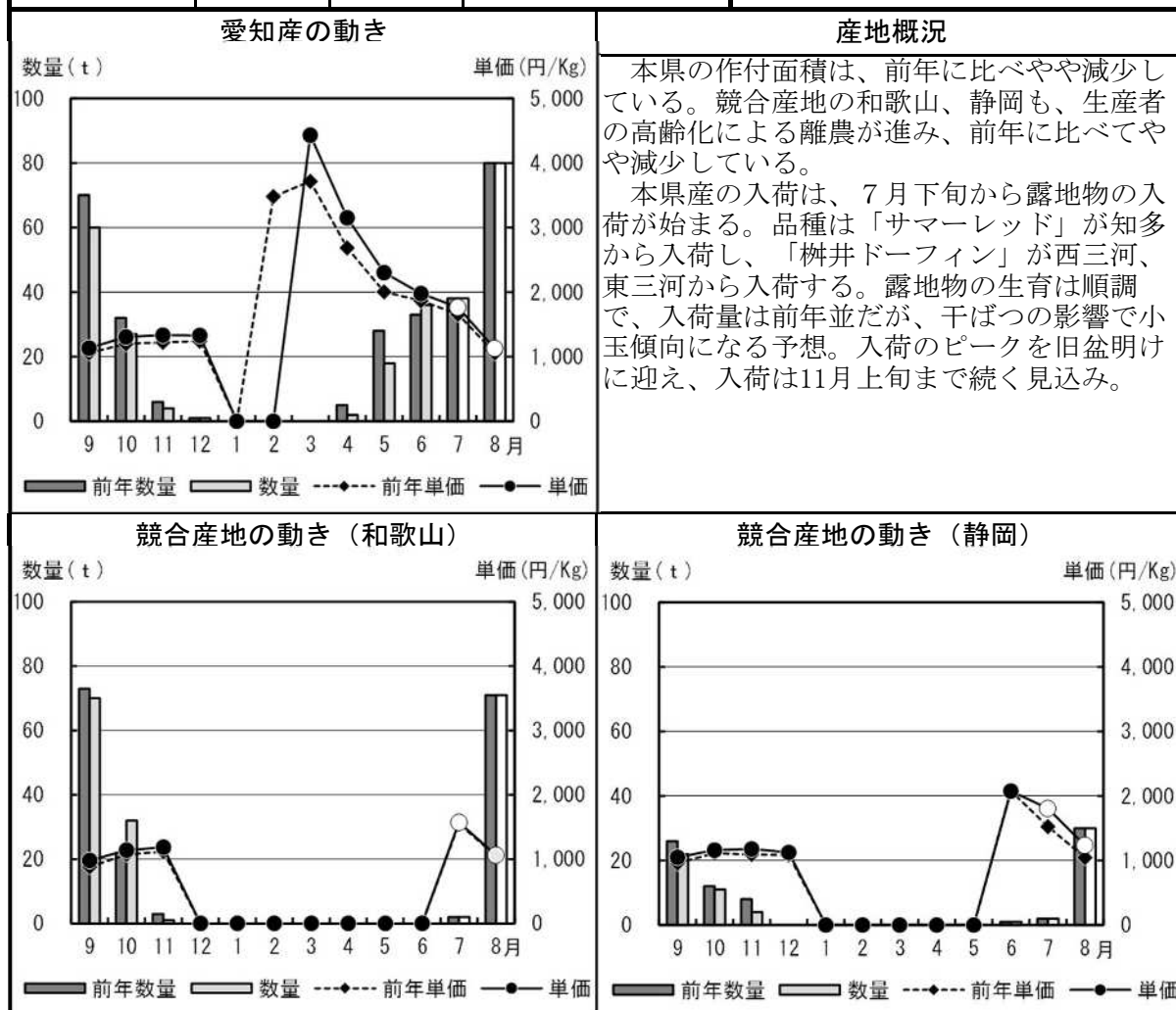
本県の 2024 年度の秋冬野菜は、他の競合産地と同様、天候不順によっていずれの品目も出荷量は大きく減少しました。今夏も全国的に猛暑が予想されていますが、京浜市場では本県の産地に対する安定した品質と供給への期待が高いという印象を受けました。

東京都中央卸売市場における8月の主要な愛知産青果物の動向

1 8月の見通し

品目名 いちじく

実績等	区分	入荷量 (t)	卸売価格 (円/kg)	前年上位3産地(%)	市場からの提言等
実績	2020年	292	885	愛知 35%	愛知産は他県産より品質の評価が高い。今年は7月初旬からカビや病果が目立ち、着色が薄い事例もある中で、7月下旬から露地物の入荷が始まる。返品にならないように品質に気を付けてほしい。
	2021年	230	891	和歌山 31%	
	2022年	259	904	静岡 13%	
	2023年	253	932		
	2024年	228	1,068		
5ヵ年平均		252	936		
2025年見通し		230	950		



2 入荷量・価格の動き

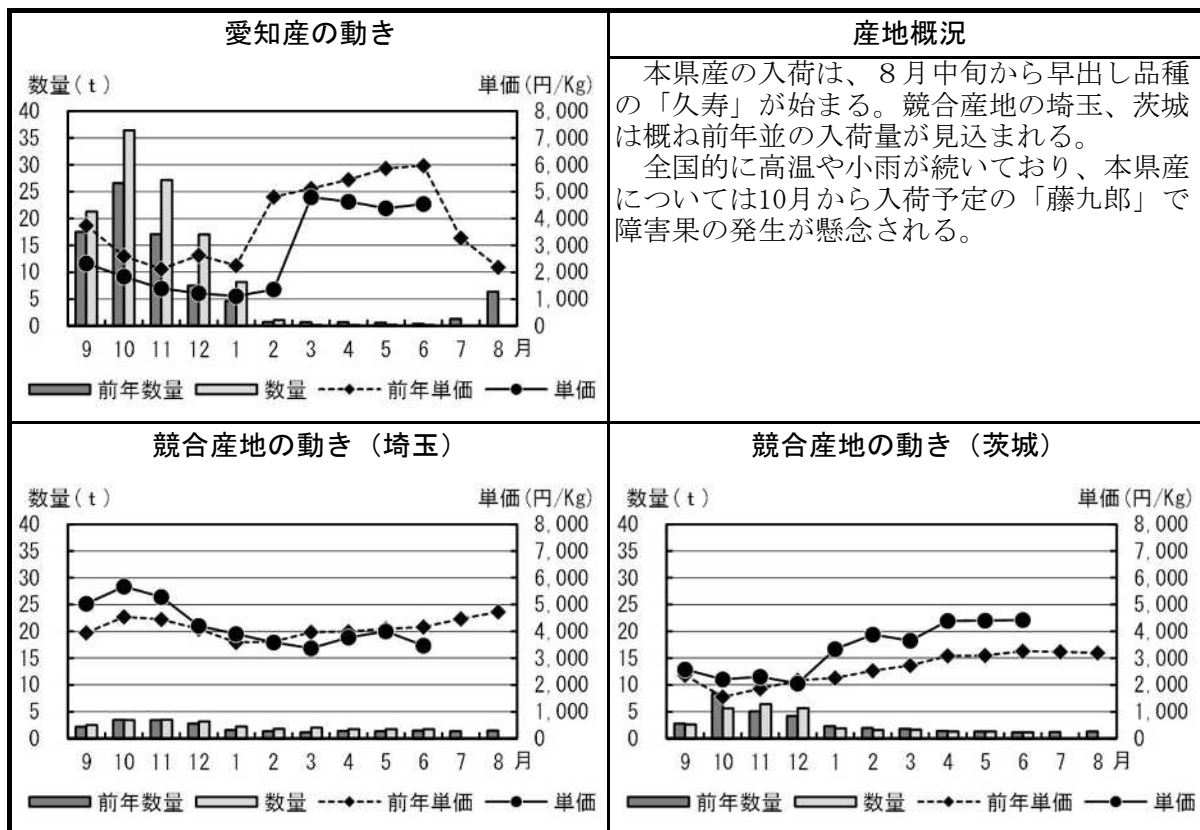
品目名 ぎんなん

前年上位3産地(%)

愛知 66%

埼玉 15%

茨城 13%



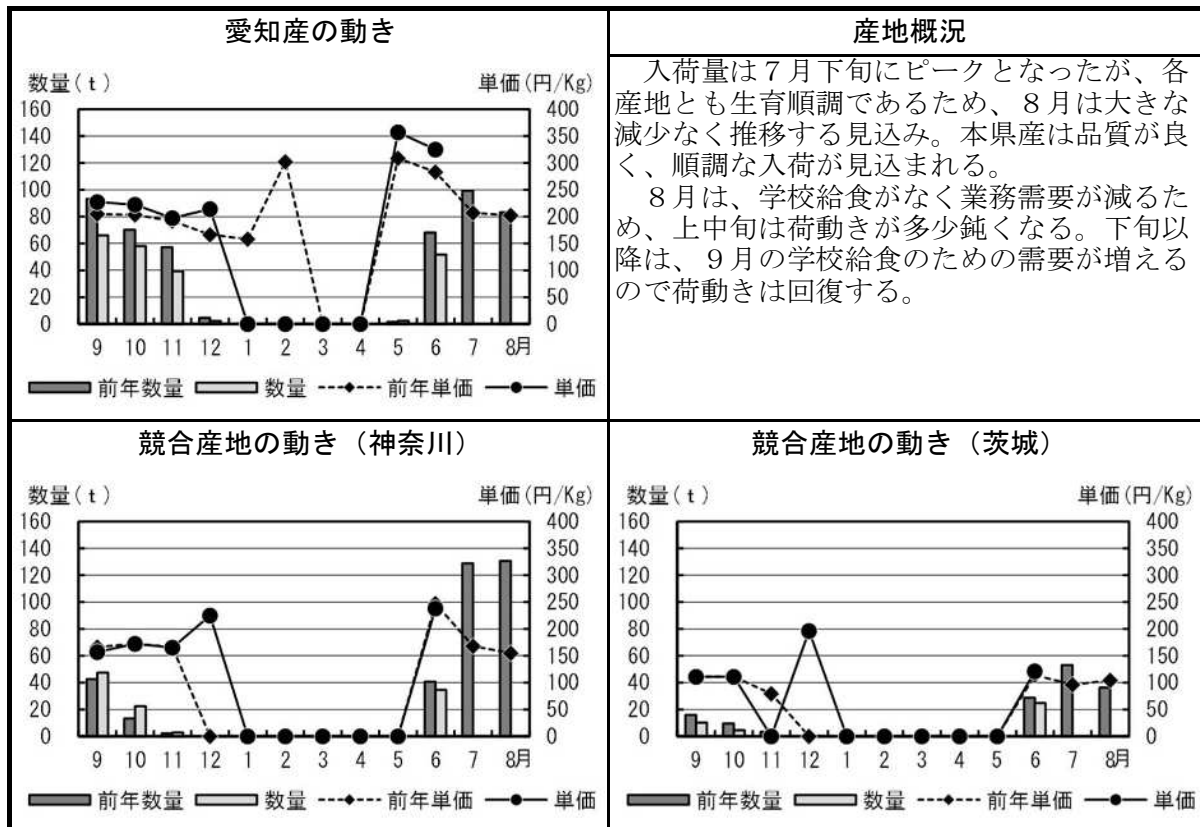
品目名 とうがん

前年上位3産地(%)

神奈川 45%

愛知 29%

茨城 12%



切 花 ・ 鉢 花 の 8 月 の 見 通 し

切 花（愛知名港花き地方卸売市場 8月1日現在）

単位：千本、円／本

品目	区分		入荷量	卸売価格	前年及び本年の入荷量・価格の動き
	実績等				
輪 ぎ	実績	2020年	2, 0 2 1	5 2	
		2021年	2, 0 0 8	5 9	
		2022年	2, 1 1 0	6 4	
		2023年	1, 6 3 4	6 5	
		2024年	1, 5 9 0	7 4	
	5ヵ年平均		1, 8 7 3	6 2	
	2025年見通し		1, 6 0 0	6 5	
概要	愛知、名古屋中心に入荷。梅雨明けも早く、高温の為出荷が若干遅れ気味。盆商戦ピークの4～11日対して引き合いが強く、安定した販売が見込まれる。				
小 ぎ	実績	2020年	1, 6 9 8	4 0	
		2021年	1, 5 9 7	3 9	
		2022年	1, 8 3 7	4 1	
		2023年	1, 3 1 9	4 7	
		2024年	9 9 9	5 5	
	5ヵ年平均		1, 4 9 0	4 3	
	2025年見通し		1, 0 0 0	5 5	
概要	愛知、長野、埼玉、岩手からの入荷。梅雨明けからの高温で若干遅れ気味。盆需要の中、入荷量は少なめで盆後半まで入荷量は安定すると予想される。盆明けからの入荷は少ない見込み。				
カー ネー シ ョ ン	実績	2020年	1, 1 9 3	4 3	
		2021年	1, 0 2 7	4 4	
		2022年	1, 1 9 7	5 9	
		2023年	1, 0 5 3	6 0	
		2024年	1, 2 5 0	5 9	
	5ヵ年平均		1, 1 4 4	5 3	
	2025年見通し		1, 1 5 0	6 0	
概要	長野、輸入品中心の入荷。国産品はやや前進傾向にあったため、次のピークが盆の需要期に合わない可能性がある。輸入品は例年の7～8割の入荷の見込み。				
か す み そ う	実績	2020年	1 0 3	1 1 5	
		2021年	1 0 9	1 0 2	
		2022年	1 5 4	1 1 5	
		2023年	1 4 3	1 1 5	
		2024年	1 6 5	1 0 9	
	5ヵ年平均		1 3 5	1 1 1	
	2025年見通し		1 6 0	1 0 5	
概要	福島、長野からの入荷。上旬は新植のピークとなるため、各産地出荷は多い見込み。数量次第では厳しい販売が予想される。				

単位：千本、円／本

品目	区分		入荷量	卸売価格	前年及び本年の入荷量・価格の動き
	実績等				
ゆり	実績	2020年	2 8 8	1 7 5	
		2021年	2 4 4	1 8 3	
		2022年	3 1 2	1 9 3	
		2023年	2 7 3	1 9 8	
		2024年	2 7 7	2 1 3	
	5ヵ年平均		2 7 9	1 9 2	
	2025年見通し		2 8 0	1 9 0	
概要	オリエンタルユリは新潟、岐阜、埼玉、北海道から入荷。全体的にやや前進気味となっているが、概ね順調な入荷が見込まれる。鉄砲ユリは兵庫、愛媛、長野から入荷。生育順調。LAユリは新潟、埼玉からの入荷。前年並の入荷予定。				
洋らん	実績	2020年	3 1 7	9 4	
		2021年	2 9 4	1 1 0	
		2022年	3 3 1	1 2 9	
		2023年	1 9 1	1 6 7	
		2024年	3 1 4	1 3 6	
	5ヵ年平均		2 8 9	1 2 4	
	2025年見通し		2 5 0	1 5 0	
概要	愛知、鹿児島、静岡などの国産に輸入品が入荷。カトレアは7月に比べ微減、コショウランは横ばいで不足感が強い見込み。シンピジウムは現地価格が高騰し、単価負けの状況。オンシジウムはハニーエンジェル中心に入荷は減少する。日照りと急激なスコール等の影響で立ち枯れが発生している。デンファレは昨年よりも入荷減、ソニア中心の入荷見込み。				
ばら	実績	2020年	4 5 1	5 3	
		2021年	3 9 8	5 8	
		2022年	6 0 7	6 4	
		2023年	5 2 0	6 9	
		2024年	5 4 2	7 0	
	5ヵ年平均		5 0 4	6 3	
	2025年見通し		5 4 0	6 5	
概要	山形、長野、愛知、岐阜を中心に入荷。後半は三重産が夏休み明けて入荷が始まる。輸入品も最終週から入荷が始まる見込み。				
枝もの	実績	2020年	1, 3 8 4	7 4	
		2021年	1, 3 9 9	8 3	
		2022年	1, 7 1 7	7 8	
		2023年	1, 3 4 7	8 5	
		2024年	1, 4 1 6	8 8	
	5ヵ年平均		1, 4 5 3	8 1	
	2025年見通し		1, 4 0 0	8 8	
概要	盆用のパンパス、アスター、リンドウなどの花材は前進傾向。山採り花木は高温のため、切った先から水没がりするので入荷量は控えめ。盆明け以降の秋出荷物の品質が心配される。				

品目	区分 実績等	入荷量	卸売価格	前年及び本年の入荷量・価格の動き
アンズ リウム	実績	2020年	12,611	905
		2021年	10,776	912
	績	2022年	11,722	989
		2023年	8,996	945
		2024年	9,738	939
		5ヵ年平均	10,769	937
		2025年見通し	9,700	900
概要		前年同様、輸入苗の高騰で仕入れが少なくなっているが、入荷量は前年並か。生産のサイズは4号～6号での出荷がメインと思われる。今年は、ピンク花の売れ行きが好調で、赤の販売状況が厳しくなっている。 前年8月の主要県の入荷実績は、金額ベースのシェアで1位愛知(88.6%)、2位熊本(3.9%)、3位福岡(2.1%)となっている。		
シャコバサボテン	実績	2020年	7,387	388
		2021年	6,975	395
	績	2022年	5,298	450
		2023年	4,538	475
		2024年	3,270	438
		5ヵ年平均	5,494	422
		2025年見通し	3,300	430
概要		入荷量は前年並みか。出荷パターンも前年同様、盆明けからとなる。天候の影響があれば品質次第で出荷減もあり得る。量販店の導入計画は3.5～5号以下が中心となり、以後の取扱いも小鉢を軸に6～8号といった展開の見込み。 前年8月の主要県の入荷実績は、金額ベースのシェアで1位埼玉(58.5%)、2位愛知(41.2%)、3位栃木(0.3%)となっている。		
バラ及びミニバラ	実績	2020年	6,075	119
		2021年	2,308	139
	績	2022年	2,003	172
		2023年	4,758	135
		2024年	2,868	147
		5ヵ年平均	3,602	136
		2025年見通し	2,700	141
概要		入荷量は前年よりやや減少か。6月からの高温の状態が続く、生産環境及び販売状況にも大きな影響が出てきている。時期的に棚持ちの悪さもあり、安値安定の相場となりそう。 前年8月の主要県の入荷実績は、金額ベースのシェアで1位岐阜(44.4%)、2位愛知(20.7%)、3位埼玉(15.5%)となっている。		

単位：鉢、円／鉢

品目	区分		入荷量	卸売価格	前年及び本年の入荷量・価格の動き
	実績等				
オンシジウム	実績	2020年	1, 3 0 2	8 4 0	
		2021年	1, 3 2 8	6 9 2	
		2022年	1, 4 9 3	4 9 7	
		2023年	8 2 9	8 1 7	
		2024年	3 1 0	6 9 2	
	5ヵ年平均		1, 1 5 4	7 1 2	
	2025年見通し		3 0 0	6 6 7	
概要	入荷量は前年よりやや減少か。6号寄せ鉢が中心となりそうで比較的安定した値動きの見込み。 前年8月の主要県の入荷実績は、金額ベースのシェアで1位愛知(94.5%)、2位高知(5.5%)となっている。				
スパティファイラム	実績	2020年	2, 8 7 2	2 7 4	
		2021年	2, 2 7 7	5 0 3	
		2022年	1, 7 0 1	4 3 8	
		2023年	2, 5 6 0	3 2 6	
		2024年	1, 2 1 9	3 4 9	
	5ヵ年平均		2, 1 2 6	3 7 0	
	2025年見通し		7 0 0	3 5 0	
概要	入荷量は4号規格を中心に大幅に減少か。生産環境の変化やコスト高などにより減少の見込み。9月はさらに少なめとなる予想。 前年8月の主要県の入荷実績は、金額ベースのシェアで1位三重(42.1%)、2位愛知(30.0%)、3位岐阜(26.0%)となっている。				
ドラセナ類	実績	2020年	1 9, 8 2 4	8 3 2	
		2021年	1 6, 3 9 6	1, 1 6 5	
		2022年	1 4, 7 8 0	1, 0 2 2	
		2023年	8, 3 3 4	1, 1 6 3	
		2024年	6, 9 1 8	1, 3 9 7	
	5ヵ年平均		1 3, 2 5 0	1, 0 5 7	
	2025年見通し		6, 0 0 0	1, 0 0 0	
概要	入荷量は前年よりもかなり減少か。特にコンシンネの生産が極わずかで、輸入原木の出荷がメインの見込み。最近では、種苗会社がコンシンネの苗を生産者に販売している為、4号～6号迄のサイズでの出荷が増える見込み。8号以上の商品は、生産に時間がかかり、輸入原木の高騰で生産量は減少と思われる。 前年8月の主要県の入荷実績は、金額ベースのシェアで1位愛知(52.7%)、2位三重(14.0%)、3位鹿児島(11.1%)となっている。				



いいともあいち運動って知ってる??

- 県内の消費者と生産者が今まで以上にいい友関係になる
- Eat more Aichi products (イート モア アイチ プロダクツ)

＝もっと愛知県産品を食べよう（利用しよう）

愛知県の農林水産業の振興や農山漁村の活性化を通じて県民全体の暮らしの向上を図るため、県民の方々に「愛知県農林水産業の応援団」になってもらい、消費者と生産者が一緒になって愛知県の農林水産業を支えているという「運動」です。

県民の方々に愛知県産農林水産物をもっと利用していただきたいという、「愛知県版地産地消の取組」でもあります。

あいち農産物生産流通レポート No.626
2025年8月発行
農業水産局農政部食育消費流通課
〒460-8501
名古屋市中区三の丸三丁目1番2号
電話 (052) 954-6434